

京都府丹後教育局のホームページもご覧ください



丹後はぐくみネットワーク通信

京都府丹後教育局 社会教育担当広報紙 令和元年度第3号（通算62号）令和2年3月6日

誰もが心豊かで充実した生活を営むことができる、そうした環境をつくるには、住民の主体的な社会参画のもと、「人がつながる地域づくり」を進めることが必要です。「誰もが」とは、年齢・性別・障害の有無や国籍にかかわらず、地域で暮らす人の全てを指すと考えます。時々に応じて、誰もが助け・助けられながら暮らす中でつながりが生まれます。つながりが増える中で助け・助けられることがあたりまえになります。よいつながりをつくるには「対話しながら互いの暮らしについて一緒に考える」ことが必要になります。また、固定した考え方にならないように「学ぶ」ことが必要になります。

第3号では、視覚障害者の方々や社会教育委員の方々と学び合ったことを紹介します。

障害のある人もない人も共に 安心していきいきと暮らすために・・・



令和元年11月14日(木)、アグリセンター大宮にて、丹後視覚障害者社会教育指導者研修会を行いました。管内の視覚障害者の方々やボランティアの方々等、計48名の方に御参加いただきました。研修会後半は京丹後市立大宮中学校3年生との交流を行いました。「共生社会の実現に向けた一歩」を感じる事ができました。

共生社会って？

「共生社会」とはすべての人が障害の有無によって分けられることなく、お互いのことを尊重しあいながら共に暮らしていく社会のことをいいます。

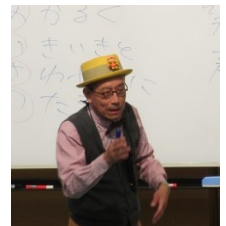
<共生社会を実現するために大切なこと>

- ① 障害について正しく理解すること
- ② 会話・コミュニケーションを大切にし、お互いのことをよく知ること



いただいた交遊亭楽笑様は「『障害者だから』できない」のではなく、「障害者だからこそできる」こともたくさんあると話されました。

障害の有無に関わらず、一人ひとりが社会をつくる一員として、様々な立場の人とつながり、地域について、生き方について、「対話」しながら「一緒に考える」ことが大切です。



人権視聴覚教材の活用が進んでいます！

丹後教育局では人権問題に関する学習資料として、学習リーフレットの配付や視聴覚教材の貸出を行っています。今後の人権学習、研修会等で御活用ください。

リーフレットは当局HPでも公開していますので、視聴覚教材とセットで活用しても効果的です。

<主な活用事例>

- ・公民館の人権学習講座
- ・PTA学級懇談会
- ・学校での人権学習、校内研修
- ・地区行事での視聴

利用方法などの問い合わせ先

京都府丹後教育局 社会教育担当
0772-22-4504



今年度は「障害のある人の人権」に関する資料が充実しました！

丹後子育てつながりプロジェクトリーフレット ～子育てしやすい環境づくりの推進に向けて～

丹後家庭教育支援協議会では、本年度、丹後広域振興局と連携し、子育て情報をまとめたリーフレットを作成しました。各市町の子育て支援センターや図書館、公民館にも配架していただいておりますので、是非ご覧ください。



スマートフォン、タブレット等からも見ることができます。

子育て環境日本一を目指して

丹後教育局社会教育担当では、次年度、「子育て支援」を大きなテーマとして協議を進めていきます。子どもは本来、見たい、知りたい、やってみたいという意欲の塊です。全ての子どもの心の奥には「育ちたい」という思いがあります。「子育て支援」では、そんな子どもの「育ちたい」気持ちに周りの大人が寄り添い、子ども本来の育ちを支援します。また、子育てを支援する環境は、多様な人とのつながりや関わりの中で子どもが育つことのできる環境です。子どもが地域の人との関わりの中で学び、成長しようとする姿は、周りの大人や保護者の学びも促すと考えます。

令和2年度

丹後地域では、子どもの成長を支援する活動が様々な形で行われています。令和2年度からの当局主催協議会では、各団体の皆様とも連携し、子育て支援に必要な環境や大人の関わり方などについて協議をします。また、具体的な活動やプログラムの仕組み方なども検討していきたいと考えています。

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

PART III

地域と学校の連携・協働の仕組み
～地域とともにある学校づくりを目指して～



今回は地域学校協働活動推進員についてご紹介します。

〈ある推進員さんより〉

地域学校協働活動推進員とは？

推進員の役割は地域人材を学校支援活動に結びつけることです。活動の大きなポイントは、地域の立場と学校の立場の双方を理解しながら進めることです。推進員が学校運営協議会に加わることは、地域学校協働活動推進員の存在が学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進にとって重要です。

『地元の社会と交流をもち、多くの大人との出会いを経験した子どもたちは、どんな時でも「決して自分一人ではない」という自信をもつ。

将来、道に迷い、壁にぶち当たった時にも、ふるさとの経験がその道を切り開く力になる。そんな「子育て」を地域全体で取り組んだ町は決してすたれることなく、いつまでも活気ある輝いた街であり続ける！』

このような思いをもち、活動されている推進員さんが全国様々な地域にたくさんおられます。

丹後地方社会教育委員連絡協議会 ～社会における人づくり地域づくりを担う存在として～

令和元年10月24(木)に、丹後地方社会教育委員連絡協議会委員の皆様が全国社会教育研究大会兵庫大会に参加しました。

「社会教育委員はAEDのような存在」

会長挨拶では「AEDは人々にとっていつも意識されるものではない。けれど、人々の安全のために必要で、いざという時必要とされるもの。社会教育委員はAEDのような存在です。」という話がありました。丹後地方の社会教育委員は総勢、41名いらっしゃいます。各市町教育委員会と協力し、管内の様々な場所で自ら学び、つながりを広げ「人がつながる地域づくり」に貢献されています。

「わかりあえないことから～多文化共生を目指す演劇教育～」

平田オリザさん(劇作家・演出家)は講演の中で「対話」の大切さについて語られました。

- ・他人と関わろうとする時、相手も自分と同じ感じ方をするとすることで「摩擦」が起きる。
- ・他者との関係づくりでは、「わかったつもりが落とし穴」
- ・対話によって「違うこと」を顕在化させ、その違いを受け入れた上で関係を築くことが大事
- ・多様な人と議論しないと価値観を広げられない。「誰と学ぶか」が大事
- ・「知的好奇心を刺激する」他者との出会いと経験で「身体的文化資本」を増やすことが必要

